

# I 石川県における木材の加工流通の概要

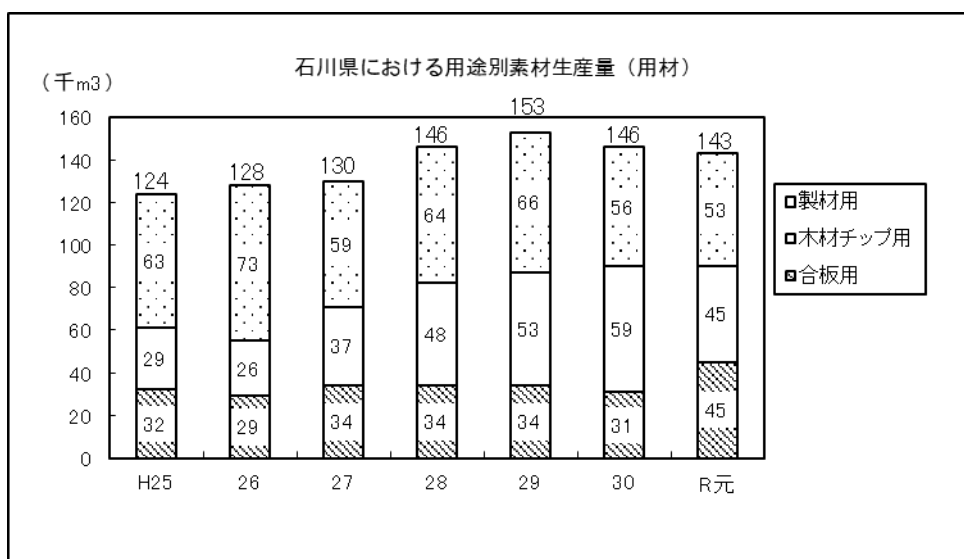
## 1 木材需給の現況

### (1) 素材（丸太）

#### ○ 素材生産量は微減（Ⅱ－2表）

令和元年次の県内素材生産量は143千 $m^3$ （対前年97.9%）であった。

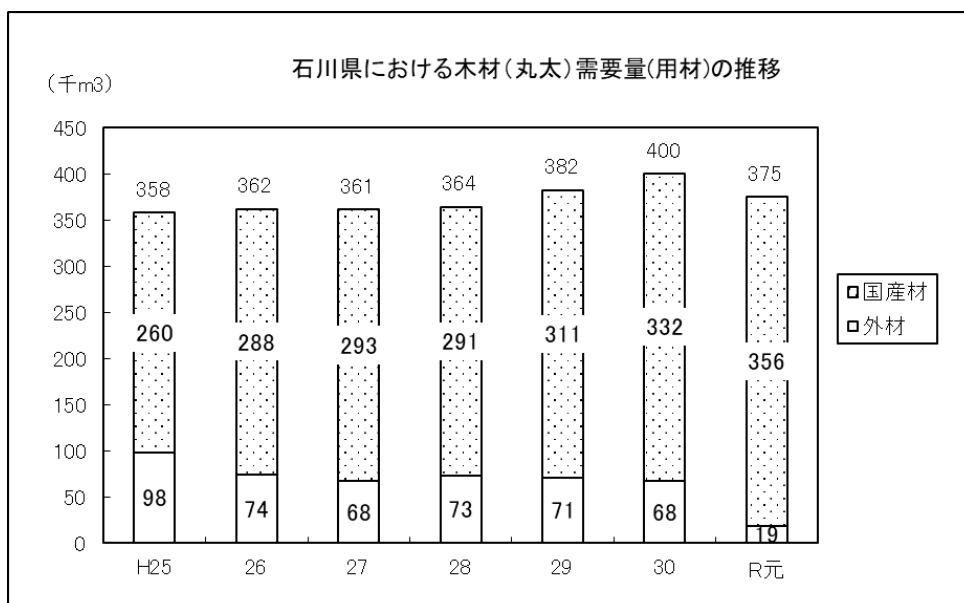
用途別では、製材用が53千 $m^3$ （対前年94.6%）、合板用が45千 $m^3$ （対前年145.2%）、チップ用が45千 $m^3$ （対前年76.3%）となった。



#### ○ 木材需要量は減少（Ⅱ－8表）

令和元年次の県内木材（丸太）需要量は375千 $m^3$ （対前年93.8%）となった。

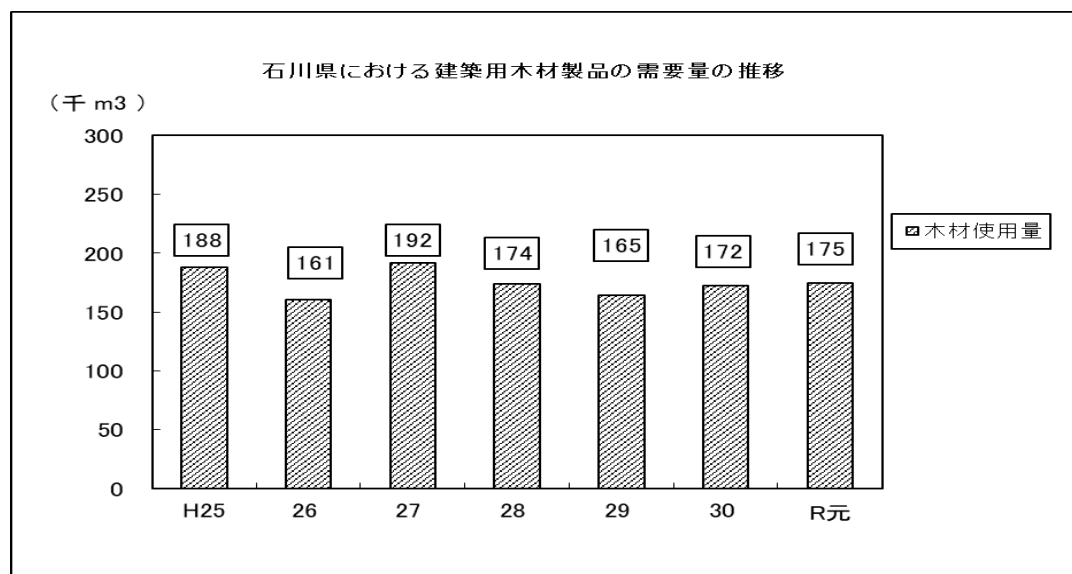
内訳は、国産材が356千 $m^3$ （対前年107.2%）、外材が19千 $m^3$ （対前年27.9%）であり、国産材の割合は、94.9%（対前年11.9ポイント増）となった。



## (2) 製品

### ○ 建築用木材製品の需要量が微増 (VI-3 表)

令和元年次の県内建築物着工床面積は木造 702 千 m<sup>2</sup> (対前年 101.7%)、非木造 621 千 m<sup>2</sup> (対前年 101.1%) であったことから、建築用木材製品の需要量 (推計) は 175 千 m<sup>3</sup> (対前年 101.7%) となった。



【推計方法】 木造：着工床面積 (m<sup>2</sup>) × 0.180 (m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>)

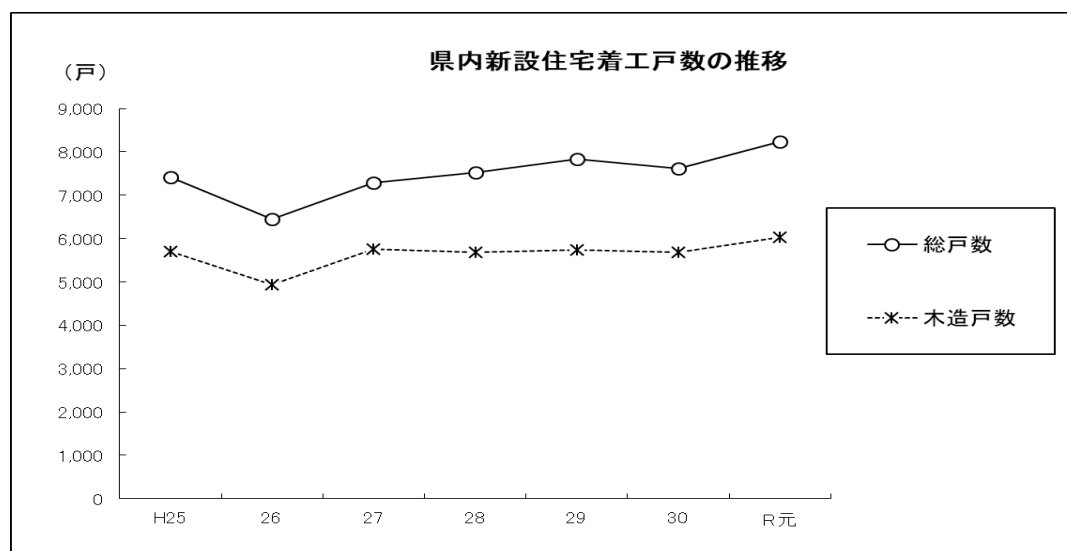
非木造：着工床面積 (m<sup>2</sup>) × 0.078 (m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>)

## (3) 新設住宅着工戸数の推移

### ○ 新設住宅着工戸数、木造戸数ともに増加 (VI-1 表)

令和元年次の県内新設住宅着工数 8,237 戸 (対前年 108.3%) のうち木造住宅は 6,022 戸 (対前年 105.8%) となった。新設住宅着工数の木造率は 73.1% (対前年 1.7 ポイント減) であった。

着工新設住宅の総床面積は 788 千 m<sup>2</sup> (対前年 107.8%) で、1 戸当たりの平均床面積は 95.7 m<sup>2</sup> (対前年 99.6%) であった。



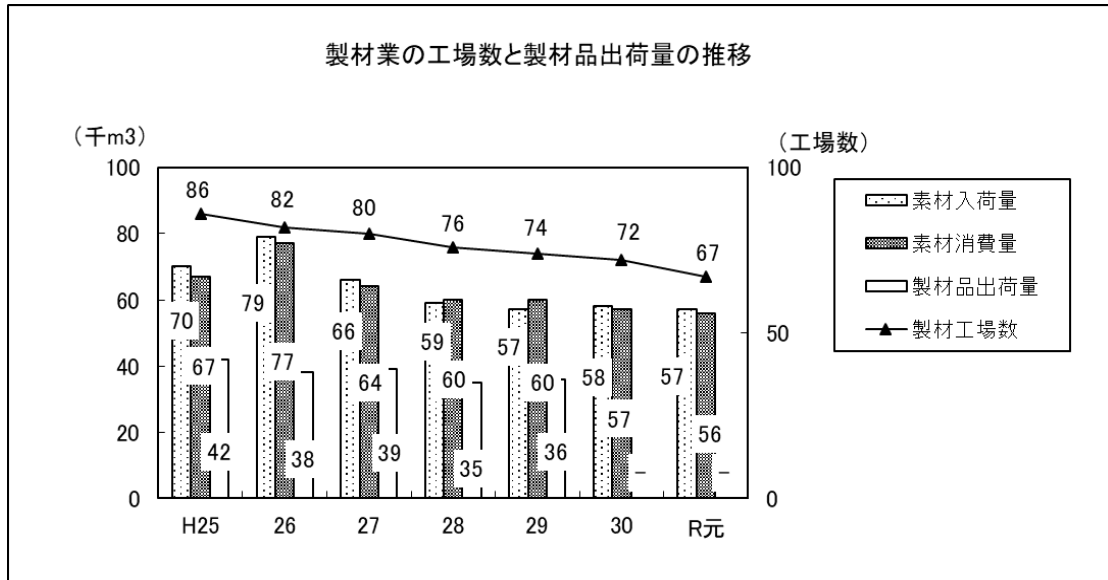
## 2 木材加工業の現状

### (1) 製材業

#### ○ 工場数が減少 (Ⅲ-2表)

令和元年度の県内製材工場数は67工場(対前年5工場減)、素材消費量は56千 $m^3$ (対前年98.2%)であった。

また、動力の総出力数は、6,392kW(対前年97.6%)であり、1工場当たりの平均出力数は95.4kWであった。

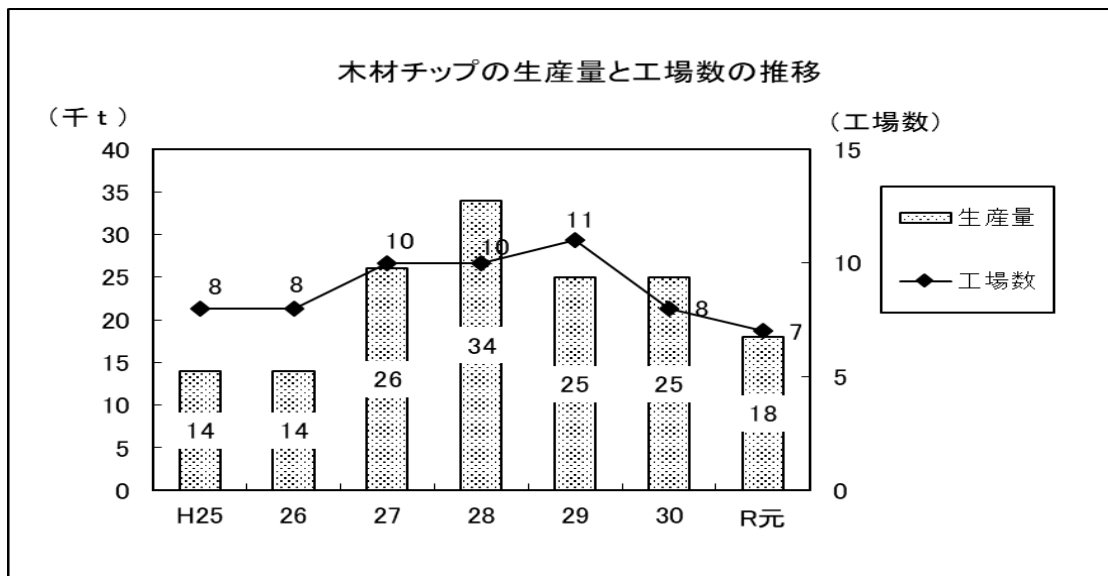


※平成30年調査より、石川県は製材品生産量の総数調査対象外のため省略

### (2) 木材チップ工業

#### ○ 工場数が減少 (Ⅲ-6表)

令和元年度の県内木材チップ生産量は、18千 $t$ (対前年72.0%)となった。原材料入手区分別では、工場残材が5千 $t$ 、林地残材が4千 $t$ 、素材が9千 $t$ (対前年60.0%)となった。工場数は7工場(対前年1工場減)であった。



※合板加工業については、1社のみであるため記載を省略

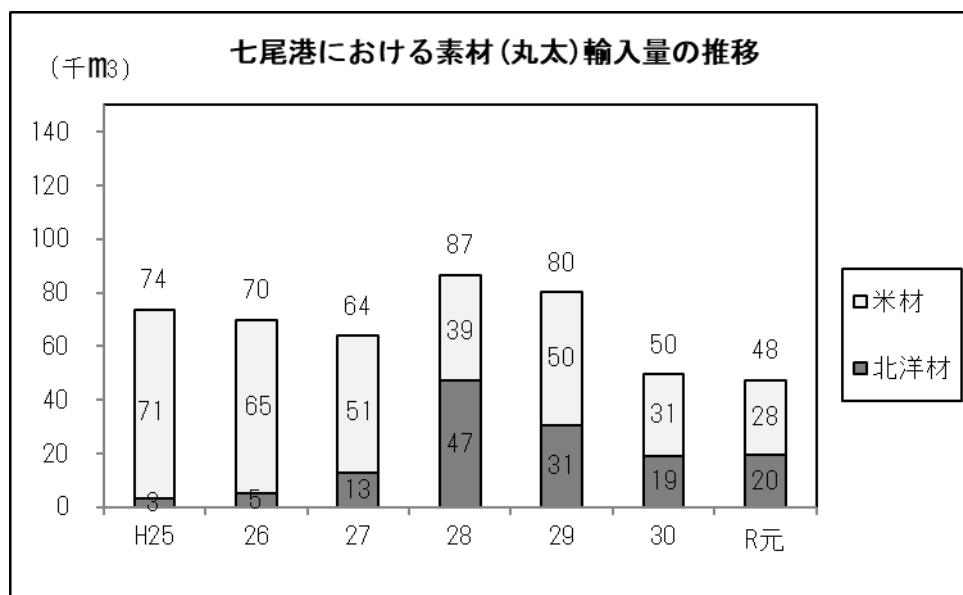
### 3 木材輸入の動向

#### (1) 素材（丸太）

##### ○ 輸入量が増加（IV－1・2表）

令和元年次の県内素材（丸太）輸入総量は 47,692m<sup>3</sup>（対前年 96.1%）で、そのすべてが七尾湾への陸上げであった。内訳は、北洋材が 19,595m<sup>3</sup>（対前年 102.3%）、米材が 28,097m<sup>3</sup>（対前年 92.3%）であった。

北洋材の内訳をみると、カラマツが 17,646m<sup>3</sup>（構成比 90.0%）であった。

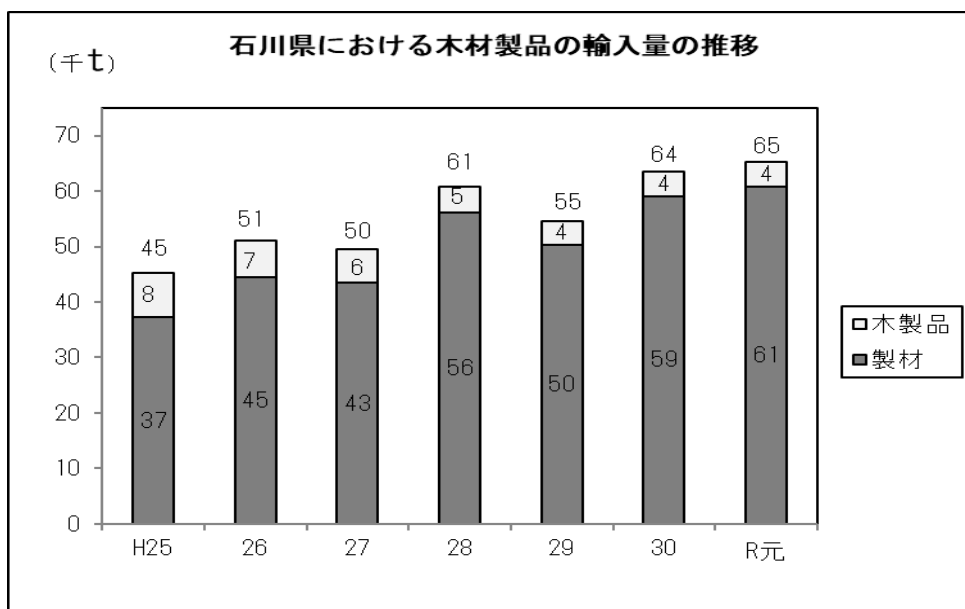


※金沢港における素材（丸太）輸入量は、平成21年次以降なし

#### (2) 製品（IV－3・4表）

令和元年次の県内木材製品の輸入総量は 65,153t（対前年 102.5%）で、その内訳は製材が 60,848t（対前年 103.0%）、木製品が 4,305t（対前年 96.1%）であった。

注：木製品は、合板、集成材、建具等を指す。

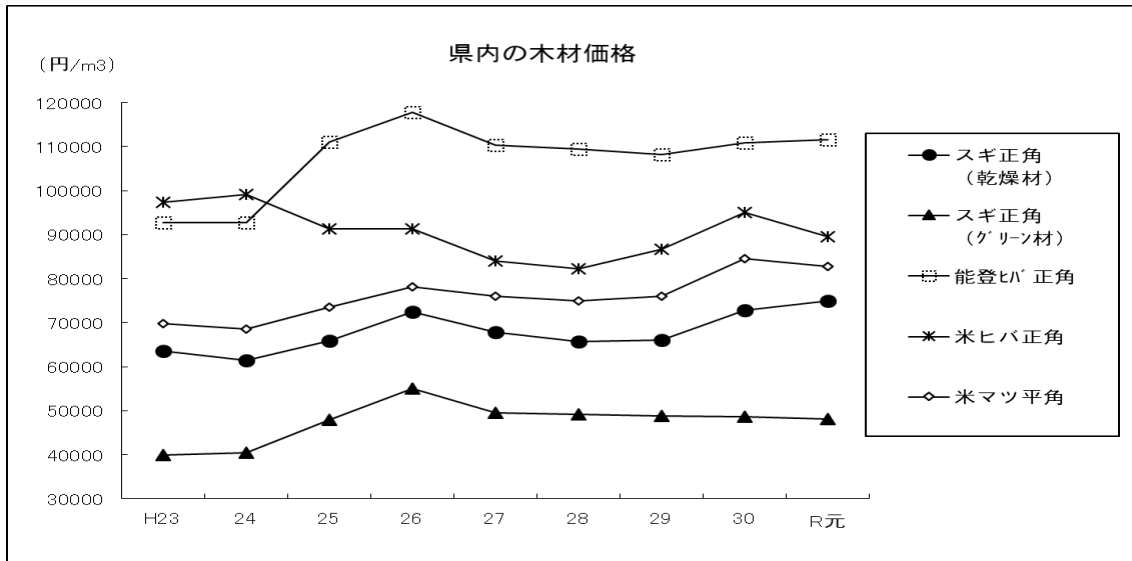


## 4 木材価格の動向

### (1) 製品

○ 製品価格は、国産材が上昇、外材は下落 (V-2表1)

令和元年次の県内の木材製品価格は、スギ正角(乾燥材) 75,000 円/m<sup>3</sup> (対前年 2,200 円高)、スギ正角(グリーン材) 48,200 円/m<sup>3</sup> (対前年 500 円安)、スギ平割 67,000 円/m<sup>3</sup> (対前年 1,200 円高)、能登ヒバ正角 111,600 円/m<sup>3</sup> (対前年 700 円高) となり、ベイヒバ正角 89,600 円/m<sup>3</sup> (対前年 5,400 円安)、ベイマツ平角 82,800 円/m<sup>3</sup> (対前年 1,800 円安) となった。



平成 19 年 5 月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

注：スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

### (2) 素材(丸太)

○ 原木価格は、国産材、外材ともに下落 (V-2表2)

令和元年次の県内の素材価格は、スギ 10,400 円/m<sup>3</sup> (対前年 1,100 円安)、能登ヒバ 12,700 円/m<sup>3</sup> (対前年 4,200 円安)、北洋カラマツは 25,000 円/m<sup>3</sup> (対前年 200 円高)、ベイマツ 31,300 円/m<sup>3</sup> (対前年 1,700 円安) となった。

